

英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
研究人材育成型廃炉研究プログラム
中間評価総合所見

<p>研究課題名：燃料デブリ取り出し時における炉内状況把握のための遠隔技術に関する研究人材育成</p> <p>研究代表者（研究機関名）：浅間 一（東京大学）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：高橋 隆行（福島大学）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：横小路泰義（神戸大学）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：川端 邦明（日本原子力研究開発機構）</p> <p>研究期間：令和元年度～令和5年度（5年計画）</p>	
項目	要 約
1. 研究の概要	<p>福島第一原子力発電所の廃炉に向けて、遠隔技術分野を中心とした研究人材の育成を行う。燃料デブリ取り出し時における炉内状況把握のためのモニタリングプラットフォームの構築、およびプラットフォーム上を移動するセンサによる計測・可視化についての研究を行う。このような研究課題に参画することによる研究教育、講義等の座学、施設見学、の3つの柱で研究人材を育成することを目的として、以下の項目を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) モニタリングプラットフォームの構築 2) 遠隔操作インターフェースの開発 3) 放射線モニタリングデバイスの開発 4) 炉内環境把握のための環境モデル立体復元手法の研究開発 5) 研究人材育成
2. 総合評価	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 炉内監視とデブリ取り出しを分離する考え方は新たな手法の1つとして期待ができる。一方、成果の実機適用を見据えると現場とのコミュニケーションが重要であるので、関係者との連携を十分に実施して欲しい。 ・ 大学院生向けの講義を展開しており、廃炉研究に興味を持つ学生が増えることに期待する。 <p>S) 特筆すべき優れた成果があげられている。もしくは、期待できる。 A) 優れた成果があげられている。もしくは、期待できる。 B) 相応の成果があげられている。もしくは、期待できる。 C) 部分的な成果に留まっている。もしくは、期待できる。 D) 成果がほとんどあげられていない。</p>